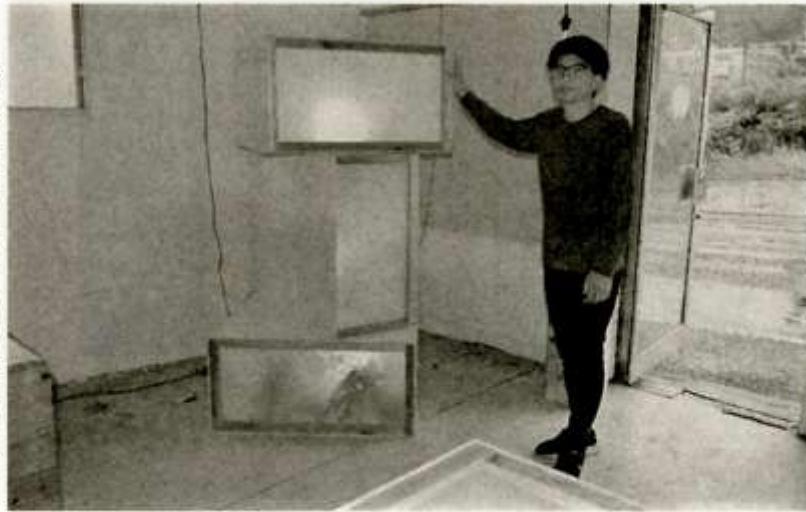


# デーリー東北

2020年(令和2年)9月13日(日曜日) (14)

光と影を使い「見え方の変化」を表現した高橋祐賢さん



## 八戸

光と影をテーマに  
空き家にて作品展示

八工大生個展第1弾

八戸工業大が取り組む、八戸市内丸1丁目の空き家を活用した「空き家リノベーションプロジェクト」(通称・アキヤプ)の一環として、同大感性デザイン学部創生デザイン学科4年生によるリレー形式の個展が12日、スタートした。第1弾は、高橋祐賢さんが「展延する脆性的な日常」

と題し、光と影をテーマにした作品を展示している。17日まで。

日常の光景を題材に空間デザインに関する卒業研究に取り組む高橋さん。新型コロナウイルス禍で、今まで当たり前のようにできていたことができなくなった日常の「もろさ」を実感したという。

「硬いのに、伸ばしたり曲げたり変形できる金属のように、自分たちの日常も柔軟に変化していくことが大切」との考えから、誰もが身近に感じ

ている光と影を、すりガラスを用いて視覚的かつ幻想的に表現した作品は、角度によって見え方が変化する。高橋さんは「いろんな角度から見ることが気付くこともある。見え方の違いを楽しんで」と話している。開催時間は午後1〜7時。今後は順次、リレー形式でそれぞれの学生の卒業研究の経過や試作品を展示する。第2弾は9月20日スタート。(三浦千尋)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。